

66. 解答：d

- a. 正：経門脈的な肝転移が最も多い。
- b. 正：早期大腸癌では陥凹型はまれである。
- c. 正：S状結腸から直腸が約40～50%を占める。
- d. 誤：大腸癌を含め、粘液産生腫瘍の肝転移では石灰化がしばしば見られる。
- e. 正：典型像である。

67. 解答：c

- a. 誤：まれではない。
- b. 誤：鑑別は困難である。
- c. 正：肝転移、腹膜播種等の頻度は比較的高い。
- d. 誤：胃が最多。次いで小腸、十二指腸。大腸、食道の頻度は比較的低い。
- e. 誤：リンパ節転移の頻度は低い。

68. 解答：a

- a. 誤：転移でよく見られる所見
- b. 正：
- c. 正：40%
- d. 正：60～70%
- e. 正：37～77%

69. 解答：c

- a. 誤：腺腫内にSPIOを取り込むことが多い。
- b. 誤：肝細胞癌に限らず、一般に低分化の方が拡散強調像で高信号を呈する頻度が高い。
- c. 正：脈管構造、浮腫を反映し、T2強調像では75～84%で高信号を呈する。
- d. 誤：Heavily T2強調像では、血管腫は嚢胞よりは低い高信号病変として認められる。
- e. 誤：脂肪沈着を伴う病変は、opposed-phase T1強調像で信号が低下する。

70. c, e

- a. 誤：
- b. 誤：
- c. 正：高頻度に生じる。
- d. 誤：
- e. 正：他に腎細胞癌、肺癌の転移など

以上、解答66～70は中山智博会員（九州大学）